

2024年度

2月11日

入学試験

国語

(30分)

注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は□一から□二まで、6ページにわたって印刷してあります。
- 3 解答の下書きが必要なときは、この問題用紙の余白を利用しなさい。
- 4 解答用紙には、受験番号と氏名を書きなさい。
- 5 解答はすべて解答用紙に書き、解答用紙を提出しなさい。
- 6 句読点、記号、符号はすべて1字として数えなさい。
- 7 本文中には、問題作成のために省略や表現を変えたところがあります。
- 8 解答は、すべて解答欄の枠の中に記入すること。

かえつ有明高等学校

一 次の各問いに答えなさい。

問一 次の――部の表現の使い方として、適当でないものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 世界で起きている戦争は、日本にとって対岸の火事ではないといえる。

イ 雨が降る可能性は低いものの折り返み傘を持参すれば、月夜に提灯だ。

ウ 彼は難しい問題でも目から鼻へ抜けるような対応ができない賢い人物だ。

エ 今年の体育祭の応援合戦は、赤組と白組とで鎗を削る大熱戦となった。

オ 彼女の父親は大企業の取締役なので、彼女は将来蜜雪の功を得るだろう。

問二 次の和歌について、後の各問いに答えなさい。

みかの原 ^①わきて流るるいづみ川

いつ ^②見きとてか ^③恋しかるらむ

(『新古今和歌集 卷第十一』)

小学館

1 ^①わきは掛詞となっていますが、二つの意味を説明しなさい。

2 ^②見きとはどのようなことをあらわしていますか。最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 逢ったこと イ 経験したこと
ウ 注目したこと エ 目を奪われたこと

3 ^③らむの読み方を現代仮名遣いで答えなさい。また、この活用形として、最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 未然形 イ 連用形 ウ 終止形
エ 連体形 オ 已然形 カ 命令形

4 この和歌はどのような気持ちを詠んだものですか。最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア いづみ川の様子と、運命の岐路に立っている自身の境遇とを重ねて嘆く気持ち。

イ 一度お別れしてしまった女性への未練の情がつのつてきている気持ち。

ウ まだ直接顔を合わせたことがない女性への思いが、溢れてきている気持ち。

エ 懐かしいいづみ川の風景をふいに思い出して、故郷が恋しくなっている気持ち。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

科学は記述から始まる。現象をコトバで記述する。ある現象とあるコトバが厳密に一对一に対応しているならば、誰が現象を記述しても同じ記述になるはずだ。

① ところが、どっこい、そうはうまくゆかない。そのことは、記述から現象を再現してみればわかる。

「白馬にまたがってやってきたのは、素敵な王子様だった」

この記述から現象を再現することはできるけれども、人によって少しずつ異なった情景を再現するに違いがない。それでもまだ、白馬とか王子様とかの自然言語には、ある程度の共通理解があるので、キリンにチンパンジーがまたがっているような情景を思い浮かべる人はいない。

昆虫などで、いわゆる新種と呼ばれる、学会未登録の種が発見されると、これを登録するために、命名記載をする。その時に、記載文という、形態をこと細かに記述した文章を付すのだが、この記述から実物を再現することは素人には不可能である。専門家でも、実はほとんど不可能に近い。ただ専門家の間では、記載文に使われるコトバについての共通理解がある程度成立しているのので、記述から実物への再現は無理でも、目の前の虫が、この種と同じかどうかくらいは判定できるのである。

コトバの共通理解について、深く考えたのは、スイスの言語学者のソシユール（一八五七―一九一三）である。

ソシユールはまず、コトバの表記はいい加減であると言う。イヌのことをイヌと呼ぶのは適当に決まったのであって、別にさしたる理由があるわけではない。別の表記、たとえば、イコでもイポでもよかったのだ。それが証拠に英語では Dog という。これを ^②コトバの（表記に関する）恣意性と言う。この話は誰にでもよくわかる。

しかし、コトバの本当の恣意性はもっと深いところにある、とソシユールは言う。

世界は連続的に変化する。我々はそれを適当に切り取って、コトバで言い当てようとする。コトバによる世界の切り取り方には根拠がない。これがソシユールの主張である。

これはちよつとわかりづらいかも知れない。多くの人は、世界にあらかじめ何らかの実体があつて、それに名前をつけていると思つているからである。

それに対し、ソシユールは次のような主張をしたのだ。たとえば、イヌとかネコとかの実体が、あらかじめ世界にあつて、それに対してイヌとかネコとかの名前をつけているのではなく、イヌとかネコとかの名前がつけられて、初めて、イヌとかネコとかの実体があるかのように見えるのだ。

やっぱりわからない？ それではこういう例はどうだろう。

日本では虹の色は七色である。色は可視光線の A ハチヨウによつて徐々に変化する。それを七つに分断する根拠はない。しかし、七色あると言われて見れば、七色に分かれて見える。だ

から、虹の色が二色であるという言語があれば、その言語を使っている人には虹は二色に見えるのである。実際にリベリアのバッサ語では、虹の色は二色であるという。

A、コトバによって世界を切り取るやり方に根拠はないとしても、同じ言語を使う人々の間では、このやり方がほとんど同じであるように見えるのはなぜだろう。

同じじゃないとコトバが通じないって？ それはまあ確かにそうだけれど。もしかしたら他人とのコミュニケーションが成立しているので、他人も自分と同じであると錯覚しているだけなのかも知れない。

他人と話していて、この人何か完全に ^B 間違っているんじゃないだろうか、と思うことがあるでしょう（向こうも同じことを思っているのかも知れないけど）。きっとその人は、あなたと表記だけは同じだけれども、実は少し違うコトバを使っているに違いない。もしかしたらあなた自身だって、昔と今とでは表記は同じでも違ったコトバを使っているかも知れないのである。

コトバが同じなのでコミュニケーションができるのではなく、コミュニケーションができるので、コトバが同じであるかのよりに錯覚されるに違いない。

B、科学はこれでは困る。科学では、コトバはなるべく同一でないと困るのだ。Aさんの記述とBさんの記述が同じ記述である限り、まったく異なる現象を意味しているのは困るの

だ。そこで科学は、コトバの同一性を求める運動、という性質をもつことになるが、それはまた後で話そう。

コトバが世界にあらかじめある実体に、名前をつけただけのものでないことは、次のようなことから理解できるかも知れない。

我々が人にコトバを教えるのに何をするかと言えば、実物を指さして、コトバを言うのである。たとえば幼児に教える時に、犬を指さしてワンワンと言う。何度か繰り返して教えると、幼児は見知らぬ犬を見ても、ちゃんとワンワンと言うようになる。もつともワンワンというコトバしか知らないと、猫を見てもタヌキを見てもワンワンと言うかも知れない。

幼児は、犬の範例をいくつか見て、ワンワンというパタンを作り上げる。最初は猫もワンワンのパタンの中に入っているが、大人にそれはニヤンニヤンだよ、と言われて、ワンワンのパタンを修正する。だからワンワンというパタンは、現物を見ながら他人とのコミュニケーションを通して、構成されるのだ。

個々の犬は確かに世界に実在するだろう。しかし、ワンワンというパタンは、幼児と無関係に世界に実在するわけではない。

科学は記述なしには成立しない。だから科学はパタンが人によって異なるのはあまりありがたくない。そこで ^C しようとして努力することになる。我々の日常の世界では、コミュニケーションが成立すれば、イヌとは何か、ということが定義できなくとも、別に問題はない。しかし科学は、できることな

らば D できるものにしたいのだ。しかし、今話したように、イヌというパターンが世界の中に実体として実在しているかどうかは非常に疑わしい。それは多分、人間の心の中に何らかのパターンとしてあるに違いないのである。

コトバはパターンである。我々は皆、^④ 心の中にイヌならイヌのイメージをパターンとしてもっている。自分にとってイヌというものは、まぎれもなくほかから区別できる。そこから、イヌというコトバには何らかの同一性がある、という考えが生じてくる。

この問題は昔から人々の関心を引いたらしい。^⑤ プラトンはこの同一性が、^{*}イデアという不変・不滅の実在であると考えた。こういう考えを実念論という。

E イヌというパターンを、物質と物質の関係として厳密に定義したいと考えている生物学者がいたとしよう。この人は実念論者であると言える。あるいは、イヌとはこれこれしかじかのDNAをもつものをそう呼ぶ、と定義したいと思っている生物学者もまた、実念論的である。ただしこの場合は、実在しているのはイヌのDNAであって、イヌであるかどうかは問題が残る。

^⑥ 実念論と反対の考えは唯名論という。唯名論の雄は、前にも話のでたオッカムである。この考えでは、イヌというのは個々のイヌの集合につけられた名で、すなわち個々のイヌとそれを

見る人間の心との関係から抽出されたもので、イヌ一般は実在しないことになる。

たとえば、現代の主流の進化論はネオダーウィニズムであり、この説によれば、進化は一般に ^C漸進的であることになる。漸進とは徐々に進むことだ。たとえばA種という生物はB種が徐々に進化してA種になったというわけだ。A種とB種は長い目で見れば連続しているのだから、A種というのは個体の集合にすぎず、実在するものではない、ということになる。だからネオダーウィニズムは種に関する唯名論である。

もつともネオダーウィニズムといえども、すべてに対して唯名論的であるわけではない。遺伝子は実在すると主張しているのだから。

今西錦司（^{いまたしきんじ}Dレイチョウ類学）は、種は実在すると主張した。だから今西は、「種は変わるべき時がきたら突然変わる」と言ったのだ。ある同一性から別の同一性へ突然変化する。種に関する実念論者としては、種が突然変化しないと困るのである。

ネオダーウィニズムは、遺伝子に関する実念論である。だから遺伝子に関しては今西と同じことを言う。「^⑦遺伝子は突然変化する」と。

今西説とネオダーウィニズムの違いは、種に関する実念論をとるか、遺伝子に関する実念論をとるか、の違いなのである。

今の話は進化論にあまり詳しくない人にはチンプンカンプンだったかも知れない。

大事なことは、科学はどこかのレベルにおいて、必ず実念論的な構成をとる、ということである。物理や化学では、このレベルは原子や分子といった物質レベルにある。たとえば、 H_2O とというのはただの概念ではなく、世界の中に実在している、とほとんどの科学者は思っている。このレベルの実念論は極めて大きな成功をおさめ、今日の科学技術を築いた。

私の主張する構造主義科学論は、いかなるレベルの実念論も間違っている、すなわち、いかなる同一性も、主観と独立の客観としては世界（外部世界）に実在していない、というものであるが、それについては後でまた少し触れよう（これについては詳しくは拙著『構造主義科学論の冒険』前出を参照されたい）。

（池田清彦『科学はどこまでいくのか』より）

*イデア：プラトン哲学で、事物の本質、価値の範型をさし、
いっさいの存在と認識の根拠とされたもの。

問一 ……部A～Dのカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 ① ところが、どっこい、そうはうまくゆかない とありますが、これはどういうことですか。最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一つの記述から誰もが完全に同じ現象を再現することはできないということ。

イ 共通了解によつて誰もが記述から同じような現象を再現できるということ。

ウ 詳細な記述がなければ、専門家であっても正確な再現は難しいということ。

エ 記述から現象を再現するのは、共通了解を持つ専門家にのみ可能であるということ。

問三 ② コトバの（表記に関する）恣意性 とはどのようなことですか。最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア コトバの表記は無根拠であり、曖昧にしか表現できないということ。

イ コトバの表記は各国で異なるので、とても文化的なものであるということ。

ウ コトバとそれが指し示すものには必然的な結びつきはないということ。

エ コトバは人間が世界を認識するための共通記号であるということ。

問四 コトバによって世界を切り取るやり方 とありますが、

「ソシユール」は、なぜコトバによって世界を切り取るこ
とが必要だと考えるのですか。「くから」に続くように文
中から十字程度で抜き出さない。

問五 ・ ・ にあてはまる語句として、

適当なものをそれぞれ次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア すなわち イ しかし ウ あるいは
- エ ところで オ たとえば カ だから

問六 ・ にあてはまる表現として、適当なも

のをそれぞれ次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア パタンを創造 イ コトバをつつがなく汎用
- ウ パタンを固定 エ コトバを明確に錯覚
- オ パタンに命名 カ コトバを厳密に定義

問七 ^④ 心の中にイヌならイヌのイメージをボタンとしてもつ

ている とありますが、このボタンはどのようにつく
られるのですか。それが書かれている一文の初めの五字を
抜き出さない。

問八 ^⑤ プラトンはこの同一性が、イデアという不変・不滅の

実在であると考えた とありますが、「実在」の言葉の意
味として、最も適当なものを次から一つ選び、記号で答え
なさい。

ア 人間の主観により抽出されて存在すること。

イ 主観から独立して客観的に存在すること。

ウ 進化の過程のうちの個体として存在すること。

エ 個別の概念として世界に存在すること。

問九 ^⑥ 実念論と反対の考えは唯名論という とありますが、

「実念論」「唯名論」の説明として最も適当なものをそれぞ
れ次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 遺伝子レベルで普遍的概念を保持しているとする立場。

イ 進化の過程において、一般的な概念を否定的に捉える立
場。

ウ 名称をつけることで普遍的概念を認識しようとする立
場。

エ 一般的な概念が実際に存在すると考える立場。

エ 一般的な概念が実際に存在すると考える立場。

問十 ^⑦ 遺伝子は突然変化する と述べるのはなぜですか。六

十字以内で説明しなさい。

国語 解答用紙

※らんには何も記入しないこと

問一 一

問二 1

2 3 読み方 活用形

4

問一 二 A B C D

問二

問三

問四 10 から

問五 A B E

問六 C D

問七

問八

問九 実念論 唯名論

問十 60 40 20

氏 名

受験番号 番

※